

岩手県立種市高等学校 海洋開発科 実習教諭 麥澤 孝一

1 はじめに

本校は岩手県のもっとも北に位置する県立学校で、普通科と海洋開発科(工業科)が併設されている。海洋開発科は土木と南部もぐりで知られる「潜水」を学べる全国的にも珍しい学科である。学校規模は学年2クラスと小規模である。

2 溶接教育の背景及び溶接大会出場のきっかけ

本科は土木技術者や潜水士を育成する課程となっているが、その中の一つが潜水士の行う特殊技能である水中溶接(溶断)を習得することである。水中溶接を行うためにはまず陸上の溶接をしっかり学ぶ必要があるため、2年時に JIS アーク溶接の基本級を全員受験させている。

私の赴任当時、高校生の溶接大会は岩手県では行われておらず、溶接協会主催の社会人が出場する岩手県溶接技術競技会(以降社会人大会とする)が行われているのみであった。岩手県溶接協会から、溶接指導をしていた先輩職員に「社会人大会の県大会に生徒と職員を出場させてみないか」と声がかかり、生徒とともに私も大会に出場し始めたのがきっかけであった。

3 溶接甲子園へ

社会人大会に出場し始めて数年後の平成29年初の高校生溶接全国大会である溶接甲子園が開催されることになり、前年の社会人大会で入賞した本科生徒を選抜していただけることになったことで初出場となった。令和元年からは、岩手県高校生溶接技術競技会が始まり、その後はものづくりコンテストの上位大会予選も兼ねるようになった。

今大会で最優秀賞を受賞した生徒は潜水士を目指して入学しており、水中溶接の腕を上げるためには、まず陸上溶接をうまくしようと1年生から溶接の練習を開始した。運動部に所属していたので部活動終了後に溶接の練習を行うことにしていたが、練習の中でうまれる疑問点はしつこいぐらいに質問をしてくる生徒であった。毎日質問や対

話を重ねていくうちに技能や知識が蓄えられた。「なぜ失敗したのか」「自分の悪いところはなにか」「失敗を改善するには」と自ら考え解決する能力が上がっていった結果、自分の溶接を確立し最優秀賞を受賞することができたと思っている。

その他にも、社会人大会県大会2位、ものづくりコンテスト(溶接部門)の東北大会も優勝し全国大会出場を果たした。

進路についても、入学当初からの希望どおり潜水会社就職し、活躍が期待される。

4 生徒の感想

溶接競技大会では、正確さや美しさの他に溶接内部の欠陥の少なさが求められ、少しのミスが結果に大きく影響します。練習では何度も失敗しましたが、そのたびに自分なりに考え工夫し、先生からのアドバイスをもらい溶接を見直し続けました。思うようにいかない日々もたくさんありましたが、続けるうちに安定した溶接ができるようになっていきました。最優秀賞を受賞することができたのは私自身の努力はもちろん、その時々運、そして先生の指導や応援、種高OBの方々の特別指導、練習時間確保のための親の送迎など多くの支えがあったからだと思います。この感謝の気持ちを忘れず、これから将来に向けて進んで行きたいと思います。

